資料No2

事前調査マニュアル

# １、はじめに

本資料は、愛知県名倉川漁業協同組合が組織する段戸川倶楽部のような釣り人組織を運営していくため、必要となる事前調査項目をまとめたものです。

いかにうまく釣り人組織の協力を得ていくか？という視点で記載しています。

# ２、地理的調査

まず、どういったエリアで釣り人組織の協力をえたいか？という点です。新規にC&R区間を作り、該当エリアの監視をしてもらいたい等が目的となるケースが多いと考えられます。

該当エリアの地理的条件でのお勧めは「今は釣り人がはいっておらず、魚影も少ないエリア」です。理由は以下です。

* 今、釣り人が多数入っているエリアに、新しいタイプのエリアを作ると、既存の釣り人とのトラブルが発生する可能性が高い
* 0から作っていくことになるため、「魚が増えた」「釣り人が増えた」という成功状態の把握が容易で、協力してくれる釣り人組織メンバーのモチベーションが保ちやすい

逆に、既に釣り人が多数入っているエリアの監視がうまくいっておらず、そのようなエリアで釣り人組織の協力を得たい場合には、上記項目に注意してすすめる必要があります。

次に、「今は釣り人がはいっておらず、魚影も少ないエリア」にC&R区間を作り、釣り人組織の協力をえるのであれば、「対象魚種が増える素地はあるか？」という点も調査しておく必要があります。

地形的に「大きな出水が発生しやすい」「産卵に最適な河床状況が少ない」「魚の隠れ家となる底石が少ない」「餌が少ない」といった条件があるために、魚影が少なく釣り人が少ない状態になってしまっているケースもあります。

時間があるのであれば、数年間発眼卵放流を実施するなどして実際に魚が増えるかをチェックするのも良いかもしれませんが、過去その場所で釣りをしていた人達からの聞き取り調査などでも一定の効果はあります。

過去によく釣れていたエリアで、釣れていた時期から、まわりの森林状況や川の構造物等の条件が変わっていないのであれば、今後魚をふやせる可能性は十分にあります。

# ３、人的調査

釣り人組織を運営していくことは、「コミュニティを運営すること」と似ています。

新規に釣り人を集めて、コミュニティを作っていくことは、非常に大変ですので、以下のステップで考えます。

1. 近くに、協力出来そうな釣りコミュニティは存在しないか？
2. 近くに発信力があり、新しいコミュニティの核になってくれそうな釣り人はいないか？

まず、①のパターンですが、既に地域に釣りコミュニティがあるのであれば、その釣りコミュニティとの協力を考えた方が容易です。0からコニュニティを構築しようとすると、拡大していく中で色々と問題が発生しますが、既に運営されている釣りコミュニティであれば、安定状態にありますので、問題が発生しにくく、該当釣りコミュニティの外から入ってくる新メンバーが慣れればよいだけになります。

この場合、釣り人組織の募集を呼びかける前に、該当釣りコミュニティの中心となる方と協議し、大枠の合意をしておくとスムーズに進みます。

次に②、のパターンです。既存の釣りコミュニティがない場合、募集後に核になってくれそうな釣り人を探しておき、事前に協力をとりつけておきます。全く新規に釣り人組織の募集を呼び掛け、メンバーが集まった場合、皆どこまで発言してよいかわからず、探り探りといった状態になりますので、話が進まなかったり、活動が停滞気味になる可能性があります。そのような場合に、一人二人でも核になりそうな人がおり、事前に協力をお願いしMTGの進め方等を相談しておけると運営が安定します。

なお、釣り人組織とは別に、漁協側に事務局は必ず必要になります。釣り人組織と漁協、双方の意見や動き方を調整する役割を担います。